

27PW-am119

発がん性ニトロソ化合物に対するアガリクス抽出液の変異原性抑制効果

○天津 ゆかり¹, 野崎 勉², 高下 崇², 木村 幸子¹ (兵庫県立大学環境人間学部,
²ビーエイチエヌ)

【目的】アガリクス(*Agaricus blazei Murrilly*)は、ハラタケ科に属するブラジル原産のキノコであり、これまでに抗がん効果や免疫向上効果が報告されている。

本研究では発がん物質である *N*-メチル-*N'*-ニトロ-*N*-ニトロソグアニジン(MNNG)や *N*, *N*-ジメチルニトロソアミン(NDMA)に対するアガリクス抽出液の変異原性抑制効果について検討した。

【方法】アガリクス抽出液を *Salmonella typhimurium* を用いた復帰突然変異試験(Ames 試験)によって抗変異原性を検討した。また、陰イオン・陽イオン交換樹脂を用いたカラムクロマトグラフィーにより、有機酸画分、非電解質画分、塩基性画分、両性電解質画分などのフラクションに分け、それぞれを Ames 試験により抗変異原性を検討した。

【結果および考察】アガリクス抽出液は MNNG および NDMA などのニトロソ化合物に対して、濃度依存的に変異原性を抑制した。また、イオン交換クロマトグラフィーで分画した各フラクションの Ames 試験では、有機酸画分で MNNG に対する抗変異原性が認められ、両性電解質画分では NDMA に対する抗変異原性が認められた。現在、抗変異原性が確認されたそれぞれのフラクションを HPLC によってさらに成分分画を進めている。

